

学校番号	51	学校名	静岡県立島田商業高等学校	校長名	増田章江
------	----	-----	--------------	-----	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	(ア)教科指導力の向上	・「ICT機器や一人一台端末を効果的に活用するなど、教え方や教材に工夫がある」と答える生徒90%以上。	・教員(90.9%) 生徒(96.2%)が肯定	A	・日常的に生徒所有端末や教室プロジェクタを有効活用している。 ・ロイロノートの活用向上を目指す。
		・「授業に主体的に取り組んでいる」と答える生徒90%以上	・生徒(97.6%)が肯定	A	・集中力を欠く生徒はいるが、授業の雰囲気は概ね良好である。より質の高い授業を目指し取り組む。
		・「授業で対話や発表の時間がある」と答える生徒90%以上	・生徒(95.3%)が肯定	A	・全ての教員の授業改善意識が高い。対話や発表の評価について研究が必要である。
		・授業のUD化を実践する教員90%以上	・教員(87.9%)が肯定	B	・UD化に対する知識は深まっている。担当する教科や生徒に応じた個別対応の意識の向上が必要である。
		・2回以上の授業参観をした教員90%以上	・年2回の公開授業週間を実施 ・教員(78.8%)が肯定	B	・公開授業を行う意識はあるが、参観する意識の向上が求められる。
	(イ)生徒の基礎学力の定着	・基礎学力向上委員会で検討した結果を踏まえて授業改善ができたと答える教員70%以上	・教員(90.9%)が肯定	B	・授業改善ができたと答える教員は、高かったが、委員会での検証が足りなかった。
		・家庭学習を週5日以上行っている生徒50%以上 ・生徒の家庭学習の習慣を促す工夫を行う教員70%以上 ・毎日学習記録をする生徒60%以上(3年部)	生徒(27.7%)が肯定 教員(36.3%)が肯定 3年部生徒(35.2%)が肯定	B	・部活動に熱心に取り組む生徒が多く、平日は時間の確保が難しく家庭学習をしない傾向があると分析している。 ・家庭学習時間を記録させて勉強を促した。 ・検定試験前の学習時間は大幅に増加した。 ・基礎学力の定着に対する課題は大きい。朝学習等を明確に位置付けてはどうか。

		<ul style="list-style-type: none"> ・年間で3冊以上の読書をした生徒70%以上 	生徒(52.9%)が肯定	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、読書の機会の提供を意識したが、読書習慣が定着しない生徒が多い。 ・次年度、本を読む楽しさを発見できるような読書機会の提供を考えている。 ①夏休みの課題の本は何冊か指定し、その中から1冊選んでPOPを作ることとする。 ②朝読書の時間には一人1冊本を用意することを徹底させ、継続的な読書を促す。 ③各学期最後の朝読書の時間を「ブックログ」記入の時間とする。 ④新入生の図書館ガイダンスを50分に伸ばし「ブックログ」の使い方の説明と春課題で読んだ本の記入を徹底させる。
イ	(ア)商業に関する専門知識・技能の習得	<ul style="list-style-type: none"> ・検定取得に向けて主体的に学習に取り組んだと答える生徒70%以上 	生徒(88.7%)が肯定	A	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学習に取り組んだと答える生徒は多いが、検定取得に結び付かない生徒もいる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・全商検定の簿記又は情報処理の2級を取得した生徒80%以上(1年生) ・全商検定の1級を受検した生徒のうち、取得した生徒50%以上(2年生) 	1年生2級以上取得(81.1%) 2年生1級取得(55.4%) 3年生で挑戦(62.0%)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・4項目中、2項目が目標を達成できなかった。 ・商業科として、基礎学力として位置づける、1年生の全商簿記2級が50%を下回ったことについて強い課題意識を持っている。 ・全商簿記2級未取得者は、次の目標を設定し検定取得意識を継続させる。
	得	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生で新たに商業系やその他の検定を取得した生徒70%以上(2年生) ・新たに資格取得に挑戦した生徒75%以上(3年生) 			<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現と関連づけて指導し、積極的に資格取得に取り組んだ生徒が多く、一定の成果があった。
	(イ)地域の資源・課題を意識した教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・『課題研究』の中で、体験的、実践的活動を行った」と答える生徒 	生徒(96.4%)が肯定	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「課題研究」でも、探究サイクルが実施され、さらに、体験的・実践的な

	動の実践	80%以上			要素を多く取入れた。
		・産官学連携による地域社会との交流年間 30 回以上	・課題研究による地域交流年間 37 回以上 ・探究活動による地域交流年間 42 回以上	A	・商業科として全学年の全授業において、産官学連携に努め、教科書だけではない授業展開を実施した。 ・地域社会との連携で、実践的な学びと課題解決力が向上した。多角的な視点や多世代の方々との交流により、協働の重要性を学んだ。
		・「他者と協力して粘り強く探究活動ができた」と答える生徒 ・「自分自身や地域の課題を考えることができた」と答える生徒 80% 以上 ・「積極的に探究活動やフィールドワークに参加した」と答える生徒 80% 以上・次年度に向けた「総合的な探究の時間」の学習プログラムの見直し	他者と協力(95.2%)が肯定 課題への取組(95.8%)が肯定 積極的(92.2%)が肯定	A	・グループワークやフィールドワークをとおしして、協働的に調査・整理・発表する力が育成された。一方で、今年度の成果を踏まえ、2年次の総合的な探究の時間や3年次の課題研究、1年次のシラバスとのつながりを意識した学習プログラムの見直しが課題であり、現在協議を進めている。 ・1学期は人見知りもあり、会話がなかなか弾まなかったが、2学期以降は協働作業にも慣れ、探究活動へ積極的な参加ができた。どのグループも偏りなく協働が展開できていた。
		・課題研究及び総合的な探究の時間の成果報告会の開催 ・「主体的にプレゼンテーションに取り組めた」と答える生徒 80% 以上	・課題研究8講座が発表した。 ・生徒(82.7%)が肯定	A	・「課題研究」の8講座全てが、探究学習を実践し、成果発表ができた。来年度も、魅力的な「課題研究」にしていきたい。
ウ	(ア) 基本的な生活習慣の確立	・場に応じた挨拶、身だしなみ、言葉遣い、態度に気を配ることができている生徒 90% 以上 ・ビジネスマナーやホスピタリティを習得する生徒を育成できた	・生徒(96.7%)が肯定 ・教員(66.6%)が肯定 ・ビジネスマナーの育成(90.9%)が肯定 ・ビジネスマナーブックを策定中	B	・生徒の自己評価は高いが、教員の認識と乖離している。生徒の進路実現に向けて、指導を充実させる必要がある。 ・上級生ほど成長を実感できるが、いっそう指導体制を整える必要がある

	<p>答える教員 80%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マナー教育推進のための教職員研修の実施 			<ul style="list-style-type: none"> ・防寒着を認めることで、学ランの着用率が低くなってしまった。 ・「トークフォークダンス」や「企業と語る会」など、地域連携事業では、服装も言葉遣いも意識され、大成功であった。 ・東京ディズニーランド研修において、ホスピタリティ精神を学ぶことができた。 ・学校生活の各所でビジネス社会に必要な力を育成するための取組みを教職員・生徒ともに実践できた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・不注意での遅刻ゼロ 	生徒(95.5%)が肯定	A	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね良好であるが、特定の生徒については課題の克服まで至っていない。 ・遅刻ギリギリで登校してくる様子も見受けられる。
<p>(イ) 特別活動や部活動を通じた豊かな人間性の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動に主体的に取り組んでいる生徒 80%以上 	生徒(95.1%)が肯定	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの生徒が主体的に取り組んでいる。 ・次年度は任意加入となるが、教育的効果を踏まえ、活性化させていきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、生徒会活動、諸活動に他者と協働して協調して取り組んでいる生徒 90%以上 	生徒(96.0%)が肯定	A	<ul style="list-style-type: none"> ・行事に取り組む姿勢は、非常に前向きで、積極的である。 ・生徒会の中心メンバーが少ない。活動をさらに活性化させていきたい。
<p>(ウ) 地域社会の一員としての意識の高揚</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人や部活動等の集団単位で地域防災や地域行事、地域ボランティアへ参加する生徒 75%以上 	生徒(61.5%)参加	B	<ul style="list-style-type: none"> ・暑さ対策等で、独自実施する自治体が増え、把握できないケースがあった。HP等に注意を要する。 ・部活動との兼ね合いで、参加が難しい環境もある。 ・地域との関りは非常に密接であると評価できる。地域ボランティアには積極的な姿が見られ、

					地域からも高評価が得られた。
(エ)健康増進のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・治療勧告を受けた生徒の受診率70%以上 ・朝食摂取率95%以上 ・保健委員会を中心に、朝食摂取を呼びかける活動を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒治療率(64.0%) ・朝食摂取率(92.6%) ・毎月朝食摂取の呼びかけ実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の治療受診率ならびに朝食摂取率向上の取組を次年度も継続していく。 ・朝食呼びかけを毎月の保健だよりで3年生全員がコラム、2年生がポスターを作成し呼びかけた。さらに、保健委員会を活性化させていく。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活リズムを整えるなど自ら体調管理を意識して生活できた」と答える生徒90%以上 	生徒(89.6%)が肯定	A	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席・遅刻・早退が比較的少なく、落ち着いた生活を送った生徒が多かった。 ・感受性が強く、健康について他者に影響されやすい生徒も散見する。 ・感染症の流行期は、感染症対策を徹底し、授業や行事が滞らないように留意する。 	
エ	安心・安全な学校作りを推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラル講座の開催 ・「モラルやマナーを守ってSNSを使用している」と答える生徒100% ・PTA総会や保護者面談において情報モラルに関する情報を提供する。 	生徒(98.7%)が肯定 PTA総会後にクラス懇談会実施	B	<ul style="list-style-type: none"> ・大半の生徒は適切に利用しているが、注意を要する生徒も一定数いる。 ・家庭への呼びかけは、必要に応じて適宜の情報提供が必要である。 ・情報モラルをテーマとした講演会等の開催も考えられる。 ・PTA総会では、情報モラルに関する話題は取り上げていないが、クラス懇談会で対応している。
	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車安全指導カードの交付件数の減少 ・生徒、PTA、教員による交通安全運動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・交付件数は32枚(1月現在) ※昨年度37枚(年間) ・教員は全て、PTA役員12名参加 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成については、現時点では評価できない。2月以降の結果による。 ・4月以降の自転車交通違反罰則強化に向けて、生徒への交通安全指導を実施したい。 ・登校指導にPTA地区役員が参加し、登校時の様子を見ていただいた。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、教職員・保護者が共に見直しを行い、必要に応じて改定を行う。 	生徒(87.1%)が肯定	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会役員を中心に、主体的に議論する生徒がいる一方で、無関心でルールを守れない生徒も一定数いる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、教職員の安全を第一に考えた防災備品の整備と点検を年2回実施し、必要に応じて見直しをはかる。 	年度当初の防災備品の点検と非常食の確認を行った	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回程度の確認は必要である。
	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の破損を原因とする生徒、教職員の事故ゼロ 	事故の発生はなかった。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年間3回の安全点検を実施し、安全管理に努めている。 ・事務室の日頃の業務と合わせて、日常的な点検も実施している。 ・不良個所への対応方法の見直しが課題である。
オ	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動ガイドラインに沿った部活動運営に努めつつ、ワークライフバランスの確保ができてきている教員75%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動ガイドライン(90.9%)が肯定 ・ワークライフバランス(72.7%)が肯定 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動ガイドラインを意識し、部活動運営を行っている。 ・ワークライフバランスは、教員それぞれの捉え方があるため、組織的な対応が必要不可欠。 ・完全退庁時刻を設定し、試行を開始した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回部活動検討委員会を実施し、「部活動の在り方」について検討する。 	・年3回実施	A	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な手続きを経て、任意加入、部活動の統廃合の方向性を決定した。 ・次年度も、今後の部活動の在り方を検討する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌の再編成及び担当業務の精査 ・職員安全衛生委員会やストレスチェック事業を活用した職場環境の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・職務にやりがい(84.8%)が肯定 ・風通しの良い職場(81.9%)が肯定 ・相互の心理的安全性確保に向けて行動(93.9%)が肯定 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の平準化を目指し、今年度に引き続き、次年度も分掌の再編成を実施する。 ・業務の削減に向けた行動が必要である。 ・今後も、風通しの良い職場を目指し、相互の心理的安全性の確保を呼び掛けていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・監査、検査等での指摘事項ゼロ 	監査指摘事項はなし	A	<ul style="list-style-type: none"> ・事務室内での情報共有が適切に行われており、適正な事務処理が行われた。 ・今後も、チェック体制を整え、ゼロを目指す。
	<ul style="list-style-type: none"> ・法令に基づいた迅速・適正な業務執行 			